

令和5年度 租税教育セミナー

川場村立川場中学校
遠峯 健一



1 川場中学校について

2 租税教育の目的

3 中学校学習指導要領に見られる租税教育

4 教科書による位置づけ

5 実践の概要

① 税務署職員による租税教室について

② 公民的分野「地方自治と私たち」

6 成果と課題

1 川場中学校について



1 川場中学校について

所在地 群馬県利根郡川場村谷地2494

川場村人口 3082人
(R5・6月末)

川場中学校生徒数 73人

学級数 普通学級3
特別支援学級2



(出典：環境王国HP「群馬県川場村へのアクセス」)

2 租税教育の目的

「次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である**租税の意義や役割**を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その**使い道に関心を持ち**、さらには**納税者として社会や国の在り方を主体的に考える**という自覚を育てること」

(国税庁HP「<https://www.nta.go.jp/about/organization/tokyo/education/index.htm>」より引用)

3 中学校学習指導要領に見られる租税教育

P149

「**租税の大まかな仕組みや特徴にも触れ、国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の基礎を理解できるようにする。**また、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解できるようにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な公民としての資質・能力を備えた国民の育成という観点から、税の負担者として租税の使い道や配分の在り方を選択・判断する責任があることなどについて理解と関心を深めるなど**納税者としての自覚を養う**ことが大切である。」

P150

「**税の負担者として自分の将来と関わらせて、税制度について考察したことをまとめたり、説明したりする活動**を取り入れるなどの工夫をすること」

(中学校学習指導要領：(平成29年告示)解説 社会科編平成29年7月より引用)



4 教科書による位置づけ

東京書籍「新編 新しい社会 公民」

第3章 現代の民主政治と社会

3節 地方自治と私たち

3 地方公共団体の課題

自分たちの身近な暮らしに関わる地方財政の課題について学習し、財源としての「地方税」や税配分の在り方についての理解を深める学習をする。

第4章 私たちの暮らしと経済

4節 政府の役割と国民の福祉

1 私たちの生活と財政

「国税」「地方税」「直接税」「間接税」「累進課税」について学習し、多種多様な租税を組み合わせて公平性を目指していることを学習する。



(東京書籍：「新編 新しい社会 公民」より引用)

5・① 税務署職員による租税教室について

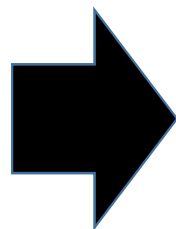
租税教室…7月

① 日米の行政サービスの違いに関する考察

2010年秋にアメリカのテネシー州サウスフルトン市で起こった本当の話です。Aさんの家が火事になりました。Aさんは急いで消防署に電話をしました。ところが、火事が起きているにもかかわらず、消防隊はAさんの家に向かおうとしませんでした。消火活動が行われないうちに、Aさんの家は、どんどん燃えていきました。やがて、隣のBさんの家へと、火は燃え広がっていきました。隣のBさんの家に火が燃え移って、初めて消防隊が出動しました。現場に到着した消防隊が消火活動を行ったのは、火が燃え移ったBさんの家だけでした。初めに火が出たAさんの家に対して、消防隊は消火活動を全く行いませんでした。結局、Aさんの家は全焼しました。



発問 消防隊がAさんの家には何もしないで、Bさんの家だけに消火活動を行ったのはなぜでしょう。



Aさんは、消防に関する料金を払っていないのに対して、Bさんの家は、料金を払っているから。



②DVD視聴

税金を負担している主人公が税のない社会を理想と考え、実際に税のない日本社会で生活することになりました。そこでは、当たり前と考えている様々なことが当たり前ではない社会でした。

- ・道路にあふれるゴミや穴
- ・有料である警察や消防
- ・街にあふれる未就学の子どもたちや仕事を求める老人たち

税によって整備されてきた公共サービスが日本社会の豊かさの根幹であったこと改めて気付かされるという内容である。

③生徒の感想（中3男子）

僕は最初「税金なんて別に必要ない」と思っていました。ですが、DVDを見た時、補修や手入れをしていないと、例えば、道路がここまですどくなるんだと分かりました。他にも、消防車や救急車は有料になり、費用がものすごく高くなってしまいます。今回の租税教室で、税金があるからこそ、自分たちの地域がきれいになっていることが分かりました。税金の必要性を改めて考えることができました。

出典：国税庁動画チャンネル「ご案内します アナザーワールドへ（中学生向け）」

5・① 税務署職員による租税教室について

租税教室…1月 ① 公平な税の集め方についての考察 I～IVそれぞれどう感じるか



I みんなから同じ金額を集める				
	持ってるお金	集めるお金	残り	みんなの気持ち
A組	700	100	600	
B組	250	100	150	
C組	50	100	▲ 50	
合計	1000	300	700	

II 特定の人が全額負担する				
	持ってるお金	集めるお金	残り	みんなの気持ち
A組	700	300	400	
B組	250	0	250	
C組	50	0	50	
合計	1000	300	700	

III みんなから同じ率で集める				
	持ってるお金	集めるお金・30%	残り	みんなの気持ち
A組	700	210	490	
B組	250	75	175	
C組	50	15	35	
合計	1000	300	700	

IV 負担する能力に応じて集める				
	持ってるお金	累進税率	残り	みんなの気持ち
A組	700	245 (30%)	455	
B組	250	50 (20%)	200	
C組	50	5 (10%)	45	
合計	1000	300	700	



②実際の税の集め方についての考察

→例えば、Ⅰ～Ⅳを組み合わせて公平な集め方を実現している。

Ⅰみんなから同じ金額を集める方法

消費税

Ⅱ特定の人が全額負担する方法

固定資産税 自動車税 酒税 たばこ税

Ⅲみんなから同じ率で集める方法

法人税

Ⅳ負担する能力に応じて集める方法

所得税 相続税 贈与税



適切な課税方法を採用して、
複数の税金をバランス良く組
み合わせる

タックスミックス



税負担の公平性の確保

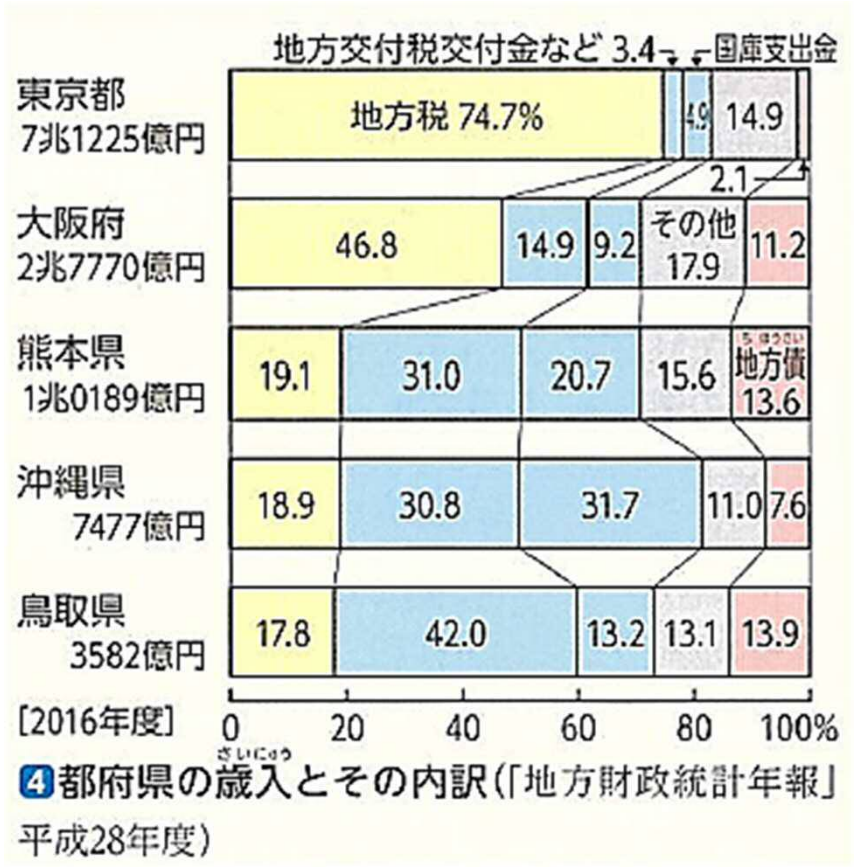
③生徒の感想（中3女子）

学校に税務署の方が来て、税に関する授業がありました。今回学んだのは、税金をどのように集めるか、についてです。班に分かれ、**全部で300万円の税金を公平に集めるにはどうしたらいいかを考えました。**班が受け取る所得の額はそれぞれ異なる想定です。全員から同じ金額で集めるという方法だと、借金しなければならない人が出てきたり、特定の人が全額負担ということも考えられ、**公平に集めることは意外に難しいと思いました。**そこで学んだのは、**負担する能力に応じた累進課税という方法です。**所得が700万円の人には35%で245万円、250万円の人には20%で50万円、50万円の人には10%で5万円ということにすると、**それぞれが持っているお金に対して、公平に払えていると感じ、良い方法だと思いました。**この授業を通して、**税金の在り方や公平に負担することについて、しっかり考えることができました。**これからも税金について関心を持って過ごそうと思います。

5・②公民的分野「地方自治と私たち」について

①自主財源が乏しい地方財政についての考察（3時間目／6時間）

主発問 地方公共団体には、どのような課題があるのでしょうか。



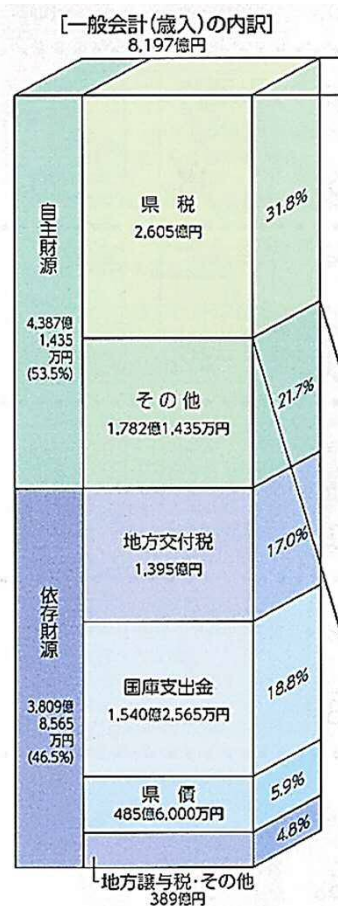
(1) 用語の確認
 自主財源…「地方税」
 依存財源…「国庫支出金」「地方交付税交付金」

(2) 資料からの気づき
 都会…自主財源が豊富
 地方…自主財源が乏しく、依存財源に依存している

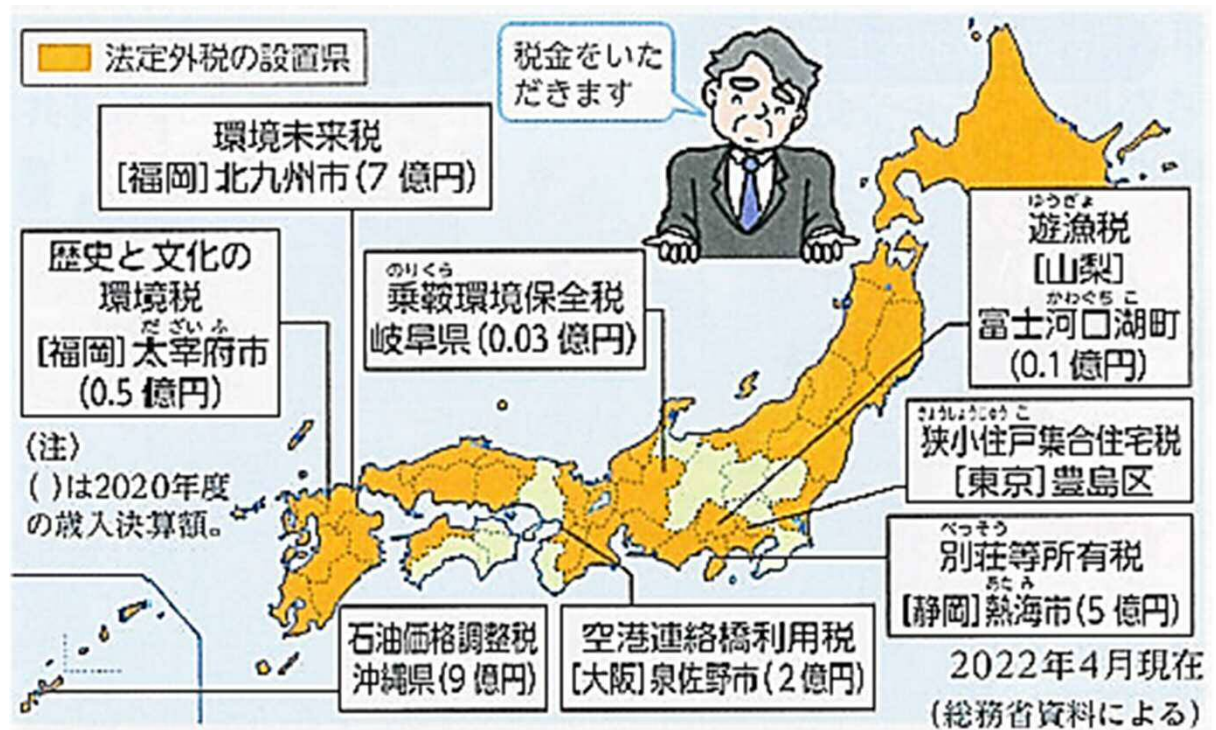
(3) 自主財源が豊富なほど、住民のニーズに合った施策が実施できる。

(出典：東京書籍：「新編 新しい社会 公民」より引用)

(4) 群馬県の自主財源の割合… 53.5%



(5) 独自財源の取組



出典：群馬県「令和5年度版もっと知りたい暮らしと県税」

出典：とうほう「ビジュアル公民2023」

(6) 群馬県における自主財源を高めるための取組

1) ぐんま緑の県民税



出典：群馬県「みんなの森をみんなで守ろう「ぐんま緑の県民税」」

2) ぐんまふるさと納税

3) 企業版ふるさと納税



出典：群馬県「ぐんまふるさと納税」

4) ネーミングライツ



ネーミングライツスポンサーの募集開始について

出典：群馬県「【4月7日】ネーミングライツスポンサーの募集開始について（財政課）」

3 資料から気付いたことをまとめよう

都府県の歳入と内訳

地方交付税交付金など 3.4 ↓ 国庫支出金

東京都 7兆1225億円	地方税 74.7%					4.9	14.9
大阪府 2兆7770億円	46.8	14.9	9.2	その他 17.9	2.1	11.2	
熊本県 1兆0189億円	19.1	31.0	20.7	15.6	地方債 13.6		
沖縄県 7477億円	18.9	30.8	31.7	11.0	7.6		
鳥取県 3582億円	17.8	42.0	13.2	13.1	13.9		

自分の意見
東京など人口が多い県は、地方税の割合が高い。逆に人口が少ない

グループ・学級の意見
東京では地方税の割合が多いが、地方では地方交付税交付金の割合が多い

・都会…自主財源が多い
→住人のニーズに合ったサービス

・地方…依存財源に頼る
→自

都会と地方の格差

4 地方公共団体が自主財源を増やす取組にはどのようなものがあるのでしょうか。

- ・公務員を少なくしたり、事業を減らしたりする
 - ・市町村の合併(仕事の効率化)
 - ・都市の人々に地方への移住をさせる
↳出生率を上げ、人口を増やす
 - ・若者の働くところを増やす(支援金などのサービス)
 - ・多いところからもらう
 - ・財源確保
 - ・地域おこしをして人を呼びおこす
- 自主財源確保 → 市町村合併
↳ 議員が減る
- ふるさと納税

生徒の感想 (中3男子)

都道府県によって歳入の内訳が異なっていて、**東京都や大阪府などの経済が活発な地域では**、地方税の歳入が半分以上を占めていました。地方交付税交付金や国庫支出金に依存せず、**運営できていました**。そのため、自主財源が多い東京都では、住民のニーズに合ったサービスを提供してることを知りました。一方で、**経済が活発でない地域は、地方交付税交付金や国庫支出金などに依存してしまっている**という経済格差のような状況になっていることを知りました。この状況を打開するために、**ふるさと納税や独自の地方税など収入を増やす取組が行われていることを知りました**。川場村も人を増やすことで地方税を増やしてほしいと思いました。

5・②公民的分野「地方自治と私たち」について

②群馬県の自主財源を増やすための取組についての調査（5時間目／6時間）

主発問 群馬県の自主財源を増やすために、どのような取組があり、どのように自主財源が活用されているのでしょうか。

- (1) 授業の見通しを伝える
 - ・ 調査班の編成・スライド構成の伝達
 - ・ 発表の見通し
 - ・ 調査に関連するHPアドレスの紹介
- (2) 調査
 - ・ 内容が聞き手に分かりやすいものかどうか
 - ・ 写真やイラストを取り入れさせる
- (3) 発表練習
 - ・ 役割分担、発表原稿の修正等



5・②公民的分野「地方自治と私たち」について

②群馬県の自主財源を増やすための取組についての発表（6時間目／6時間）

主発問 様々な取組によって集められた自主財源がどのように活用されているのでしょうか。

- (1) 自主財源・活用事例の説明、税務署職員からの補足説明
- (2) 今後の取組について考察
- (3) 税務署職員・担任からのまとめ



発表順

- 1班 ぐんま緑の県民税
- 2班 ぐんまふるさと納税
- 3班 企業版ふるさと納税
- 4班 ネーミングライツ

ぐんま緑の県民税



生徒の感想（中3男子）

税に関する悪いイメージを持っている人が多いと思います。税金は、私たちの生活を守るために大切な存在だということを改めて理解できました。例えば、群馬県には、多くの森林があります。森林の整備には多くの費用がかかります。その費用を集めるために、「ぐんま緑の県民税」があります。森林の環境保全するためには、税による支援は絶対に必要だと思います。将来大人になっても、しっかり納税していきたいです。

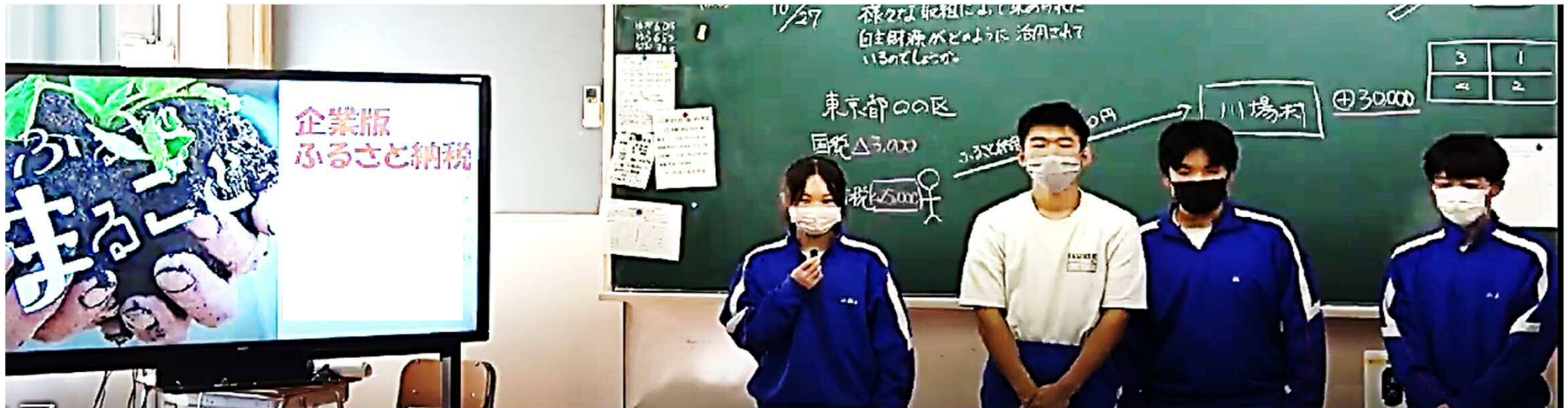
ぐんまふるさと納税



生徒の感想（中3女子）

私たちが調べたぐんまふるさと納税は、生まれた故郷や応援したい自治体（都道府県・市町村）に寄付ができる制度です。私は、川場村や過疎化や少子高齢化が進んでいる地域に少しでも寄付をして、ほんの少しでも力になりたいと思いました。また、世界遺産である富岡製糸場は、何としても守り抜いていきたいと思います。群馬県は、農業面で様々な特産品を収穫できるので、特産品を受け取ってもらえるように魅力を伝えられるといいと思いました。もっと群馬県に納税してくれる人が増えてほしいと思いました。

企業版ふるさと納税



生徒の感想（中3女子）

企業版ふるさと納税の発表の中で、「活気ある群馬作り」という言葉がありました。どの取組も「若者向け」というテーマがはっきりしていると思いました。例えば、県内に就職を希望する学生のために、企業の人材確保を支援することや、活気ある群馬県作りを目的として群馬健康ポイント制度を設けること、物作り産業DX推進事業など、様々な取組が行われていました。この活用が広がっていけば、群馬全体が発展していくと思います。活気ある群馬県をつくっていききたいです。

ネーミングライツ



生徒の感想 (中3女子)

ネーミングライツのことを初めて知りました。命名権といわれてもあまりピンと来なかったです。でも、調べていくうちに、企業名や商品名を県有施設に付けることで、施設の維持管理や地域活性化が期待できることが分かりました。企業にとっても自分の地域にとってもお互いに良い効果になることが分かりました。この取組で、地方の負担が減らせることは重要だと思いました。

1. 発表をしっかりと聞き取ろう。

	目的・仕組み	金額など	活用事例
ぐんま緑の県民税	県民や企業の人へ広く公平に税を負担する県民税均等割の超課税方式が用いられている。個人では、県の仕事に必要な経費を県民の能力に応じて負担してもらおうという考えで設けられ、会費のような性格を持つ。前年の所得についてかかる税金。	個人の納税 特別徴収 給与からの特別徴収 給与からの特別徴収 納める(毎年12回) 公的年金からの特別徴収 給与と差引引いて徴収する(毎年6回) 普通徴収 特別徴収以外で納税 通帳書より納税者が納める方法(毎年6回)	森林環境教育及び森林体験活動に必要経費の補助 森林体験、森林トレッキング、ネイチャーゲーム ツリーバンク、森林に生息する生物の観察会
個人版ふるさと納税	生まれた故郷や応援したい自治体、個人が好きな都道府県・市区町村に寄附が出来る制度。 ① 納税者が税金の使われ方を考えるき、かけとなる ② 応援したい地域の力になれる ③ 自治体にとっても地域のあり方を考えるき、かけとなる	群馬: 101億3900万円 収入が減る(←が多い) ② 自分自身で寄附金の使い道を指定できたり、地域の名産品などのお礼の品を受け取ることが出来る。	世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」等の保存活用 ぐんまのアスリート支援 ぐんま県境稜線トレイル活用促進
企業版ふるさと納税	学生等の県内就職と企業の人材確保を支援し、活気ある群馬県づくりに 国が認定した地方公共団体の事業に対し、企業が寄附した場合、法人関係税から税額控除される。 R2から大幅に見直し、損金算入による軽減効果と合わせ、最大で寄附額の約9割が軽減されるなど、より使いやすい仕組みとなった。	R4では、33件の寄附件数があり、寄附金額は93,830,700円。 ものづくり産業の推進 群馬産業技術センターにてスマートファクトリー化を目指す県内中小企業を支援する。 若者の活躍促進プロジェクト 若者と企業のマッチング支援	群馬健康ポイント制度 スマートフォンプリゼーション活用し、県民の自主的な健康作りを促進する。 子ども環境教育 子供向けの環境学習を目的とした学習会やイベントへ教師を派遣する。
ネーミングライツ	県有施設に企業名や商品名等を選んだ愛称を付与する権利 施設の看板やパンフレット、ホームページ等で表示され、企業名や商品等の宣伝効果が期待できる。また、施設の維持管理、地域の活性化などに寄与することによる企業のイメージアップが期待できる。 募集では、施設毎に特色ある特典を設定され、相性の表示のほか、企業の変更PRなどが可能となる。	ネーミングライツ導入(例: 前橋市) 年間希望金額130万円以上 群馬県立文化ホール 金額 2,000千円→200万円 動画スタジオ「tsununos-ソルリス」での代表者等へのインタビューなど	

生徒作成パワーポイント

目的・仕組み

個人版ふるさと納税

生まれた故郷や応援したい自治体、個人が好きな都道府県・市区町村に寄附が出来る制度。

仕組み・メリット

- ① 手続きをすると、寄付金のうち2000円を超える部分について所得税の還付、住民税の控除が受けられる。
- ② 自分自身で寄付金の使い道を指定できたり、地域の名産品などのお礼の品を受け取ることが出来たりする。

主な活用事例

- ・新しい熱源、湯けむりフォーラム
- ・ぐんまちゃんが笑顔を届けます
- ・イノベーション創出拠点の支援
- ・子どもたちへの文化芸術体験事業
- ・世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」等の保存活用
- ・ぐんまのアスリート支援
- ・ぐんま県境稜線トレイル活用促進 など

目的

- ① 納税者が税金の使われ方を考えるきっかけになる
- ② 応援したい地域の力になれる
- ③ 自治体にとっても地域のありかたを考えるきっかけになる

集められた金額

- ・群馬県: 101億3900万
- ・市町村別金額:
 - 千代田町 30億7800万
 - 昭和田村 10億3800万
 - 草津町 7億6200万
- ・他の市町村では寄付額が前の年度を下回った。
- ・全体の金額が去年より2億増えた。

感想・考察

- ・個人でふるさと納税をすることによって、自治体、自分自身どちらにとってもプラスになることだと思った。
- ・群馬県では100億円以上のふるさと納税が集められていることから、都市ではこの金額よりも集められている考えた。
- ・集められた納税で群馬県の世界遺産の保存などに活用していることから、ふるさと納税は、県や地域の持続、発展に繋がっているとと思った。

6 成果と課題

成果 **・租税が身近な生活の向上に役立てられていることを改めて実感することができた。**

・将来の納税者としての自覚を高めることができた。

・生徒の追究意欲を高め、教員の資質向上を図ることができた。

課題 **・ふるさと納税等の財源について調査する場面において、未習の租税である住民税や法人税などの概要を理解している必要があったこと。**